

ふれあいアンケート結果

市では、市民の皆さんの意見を市政に生かすため、6月～7月にかけて「都城市市民意識調査（ふれあいアンケート）」を実施しました。調査に協力いたしました皆さん、ありがとうございました。

今回は、満18歳以上の約13万人の市民の皆さんの中から無作為に選んだ3千人を対象に、本市の住

みやすさや、市の取り組み、市の情報の取得方法、スポーツ活動などについて調査を行いました。

回答者は1,197人（男性492人、女性694人、その他11人）で、回答率は39.9%。詳しい結果は、市のホームページで紹介しています。

◎問い合わせ 秘書広報課 ☎23-3174

【男女別回答者数】

性別	回答数	比率
男性	492	41.1%
女性	694	58.0%
その他	11	0.9%
計	1,197	100%

※回答比率は、少数点第2位以下を四捨五入して表示しているため、百分率の合計が100%にならない場合がある

【年代別回答者数】

年代	回答数	比率
10代	8	0.7%
20代	71	5.9%
30代	149	12.4%
40代	191	16.0%
50代	196	16.4%
60代	255	21.3%
70代以上	314	26.2%
答えたくない	5	0.4%
無回答	8	0.7%
計	1,197	100.0%

【地区別回答者数】

地区	回答数	比率
姫城	81	6.8%
妻ヶ丘	144	12.0%
小松原	72	6.0%
祝吉	137	11.4%
五十市	142	11.9%
横市	116	9.7%
山田	41	3.4%
高崎	63	5.3%
志和池	50	4.2%
計	1,197	100.0%

住み慣れた地域で暮らし続けるために 高齢者の生活を支える 地域包括支援センター

住み慣れた場所で元気に生活し続けることは多くの人の願い。地域包括支援センターは、高齢者一人一人が自分らしく暮らし続けられるようさまざまな相談に対応する総合相談窓口です。

◎問い合わせ いきいき長寿課 ☎23-2685

個人の状況に合わせて、適切なサービス・制度の利用や関係機関への相談につながるよう、保健師や社会福祉士、主任介護支援専門員などが支援を行います。本人や家族、近隣住民からの相談にも応じています。

介護予防を推進

地域の「通いの場」に出向き、血圧測定や健康体操、脳トレなどを通じて健康づくりを支援します。高齢者が楽しく参加することで、生きがいづくりや元気なまちづくりにもつながっています。

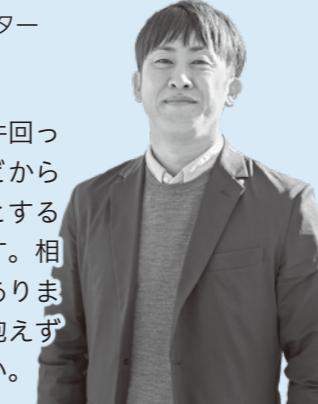
高齢者の権利を守る
高齢者が安心して生き生きと暮らせるよう、人権や財産などさまざまな権利を守ります。成年後見制度の紹介や高齢者虐待の早期発見、悪質な訪問販売による被害の防止・啓発にも取り組んでいます。

適切なサービスを提供

適切な介護保険サービスの提供のため、地域の介護支援専門員に助言や支援を行います。高齢者がより暮らしやすい地域にするために、医療機関を含む地域の関係機関とのネットワーク構築にも取り組んでいます。

姫城・中郷地区地域包括支援センター
センター長 岡崎 亮さん

実態調査で地区内を1件1件回ったり、民生委員や地域の人などから情報収集したりと助けを必要とする人がいるのか目を配っています。相談することで前に進むこともあります。悩みがある人は、一人で抱えずにまずは私たちに相談ください。



妻ヶ丘・小松原地区地域包括支援センター
センター長 押川 祐一郎さん

高齢者の総合相談窓口として、複合的な課題には行政や関係機関などと連携して対応しています。支援を必要とする人を見落とさないためには、横のつながりが大切。利用者や関係者との信頼関係を軸に、地域の見守り体制を整えていきたいです。

●開設日時 月～金曜日
8時30分～17時15分
※祝日・年末年始を除く

●開設日時 月～金曜日
8時30分～17時15分
※祝日・年末年始を除く

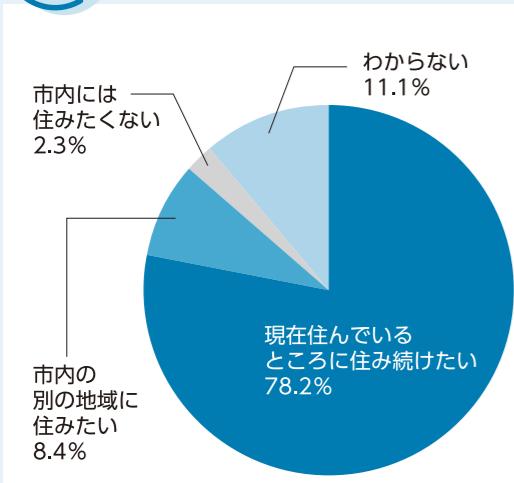
01 都市の住みやすさ



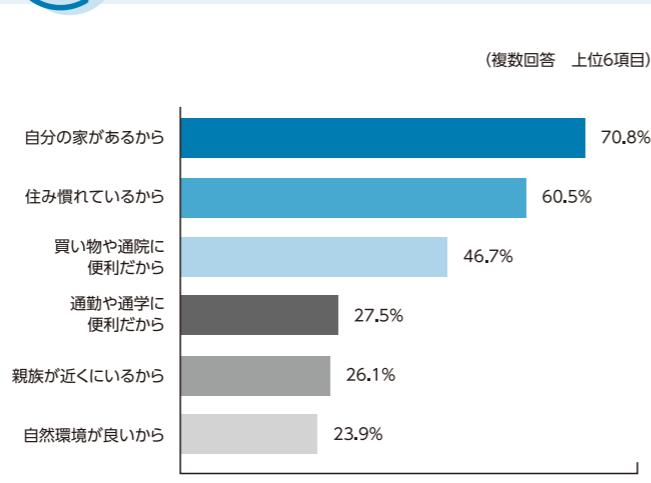
これからも都城市に住み続けたいですか。



「現在住んでいるところに住み続けたい」と答えた理由を教えてください。



【解説】回答者のうち、86.6%の人が「現在住んでいるところに住み続けたい」「市内の別の地域に住みたい」と回答していて、前年度と比較すると2.3ポイント高くなっています。年代別になると、70代の94.3%が最も多く、次いで60代、40代、30代の順になっています。



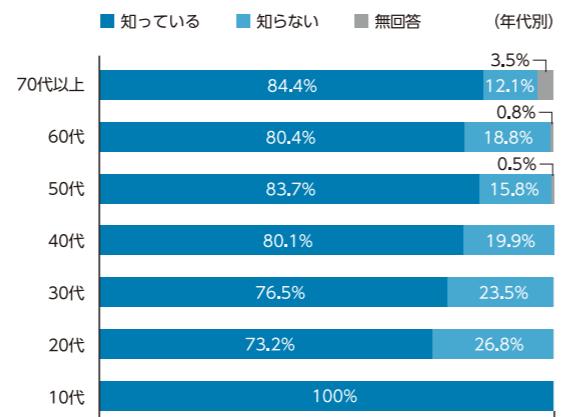
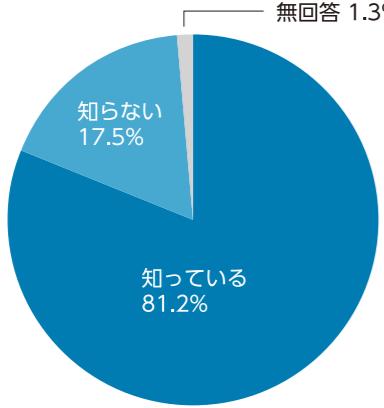
住み続けたい理由については、「自分の家がある」「住み慣れている」が高い結果となりましたが、次いで「買い物や通院に便利だから」「通勤や通学に便利だから」と答えた人も多く、生活圏の利便性に満足している人が一定数いることが分かる結果となりました。

高崎町大牟田1150番地1 ☎45-8411	山田・高郷地区地域包括支援センター ☎29-11682	山之口・高城地区地域包括支援センター ☎45-4180	志和池・庄内・西岳地区地域包括支援センター ☎45-14180	郡元2丁目17-2キルトスター店 ☎26-14212	前田町15街区6号デラコア前田ビル ☎23-19712	上町17街区19号 ☎26-18339	姫城・中郷地区地域包括支援センター ☎57-16767
------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	----------------------------	-----------------------------	---------------------	-----------------------------

04 日本のひなた宮崎 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会



令和9年に宮崎県で日本ひなた宮崎国スポ・障スポが開催されることを知っていますか。



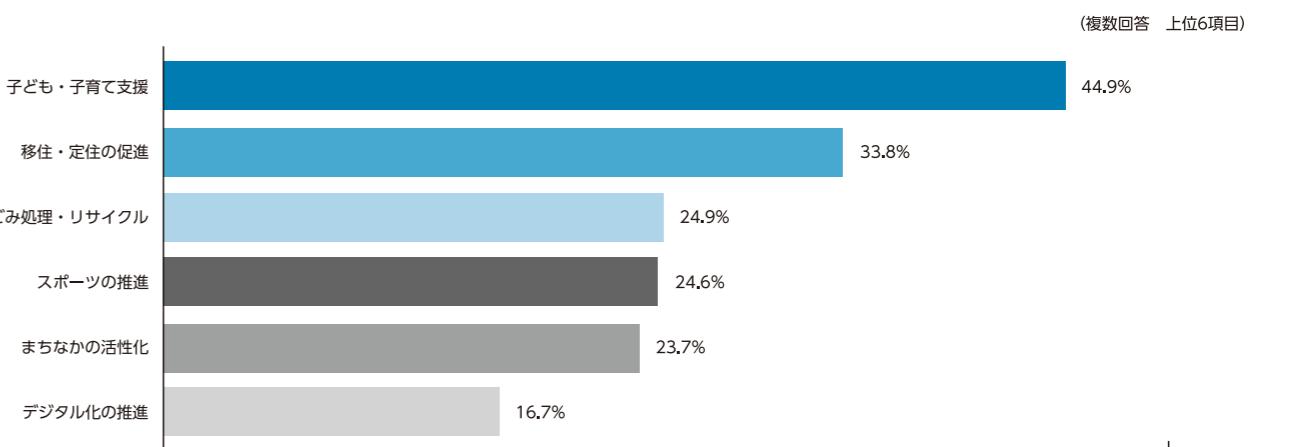
【解説】「令和9年に宮崎県で日本ひなた宮崎国スポ・障スポが開催されることを知っているか」について、本市では、「知っている」が全体で81.2%、年代別でも全世代で70%以上となっていて、広く周知されていることが分かる結果となりました。

本市では、総合開会式・閉会式のほか、国スポでは陸上競技、バスケットボール、ソフトテニス、障スポでは陸上競技、バレー、ボッチャが開催されます。

02 市の取り組み



市が行っている施策や事業の中から、以前に比べて「良くなっているもの」を3つまで選んでください。



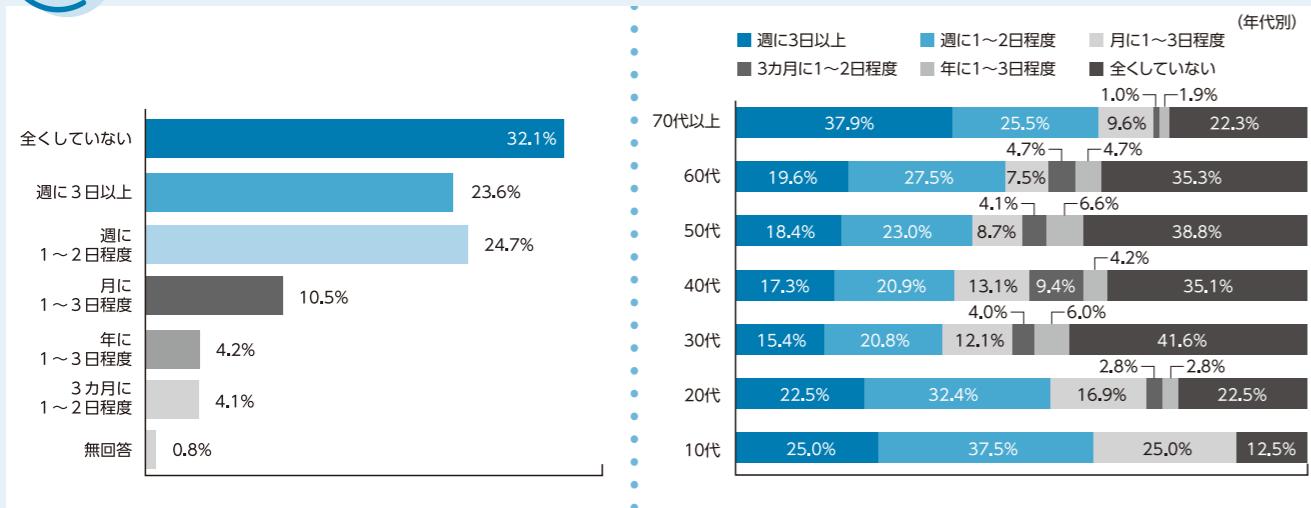
【解説】市が行っている施策や事業の中で、以前に比べて良くなっている項目は、「子ども・子育て支援」が44.9%と最も高く、次いで「移住・定住の促進」33.8%、「ごみ処理・リサイクル」24.9%、「スポーツ

の推進」24.6%となりました。前年度の結果と比較すると、上位3つの項目は同様ですが、「スポーツの推進」は、7番目(10.8%)から4番目(24.6%)に上昇しています。

05 スポーツ活動



健康や楽しみなどのために、運動・スポーツ（体操やウォーキングなどを含む）を行っていますか。



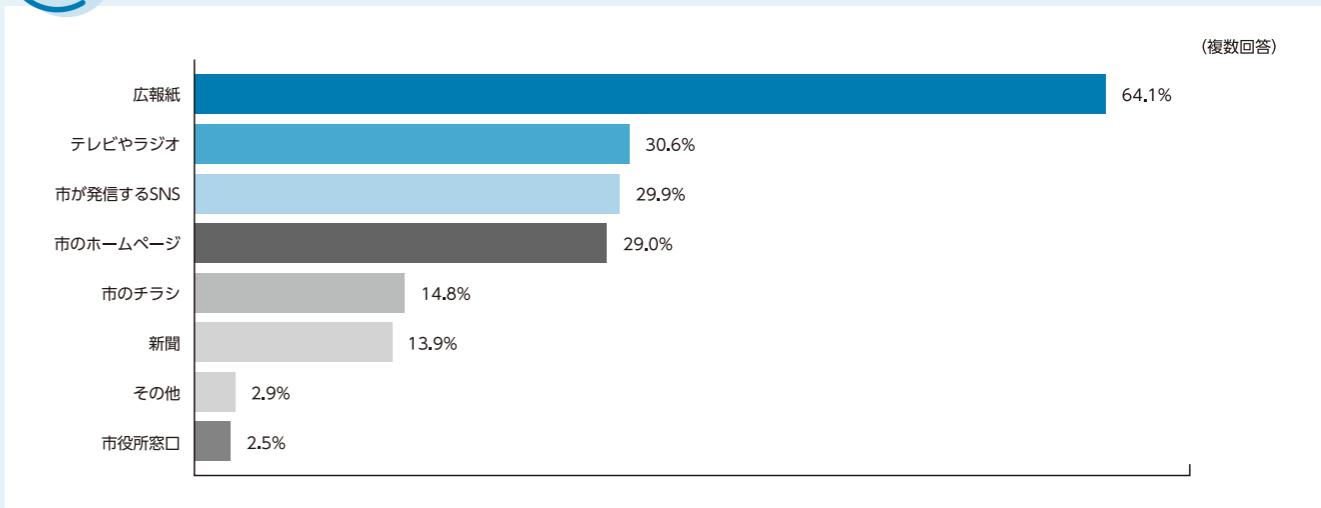
【解説】運動やスポーツの頻度は、「週に3日以上」が23.6%、「週に1~2日程度」が24.7%となり、48.3%の人が健康づくりのために、週に1日以上運動やスポーツに取り組んでいることが分かりました。一方

で32.1%の人が「全くしていない」と回答しています。年代別では、前年度と比較すると週に1日以上運動する人が20代から40代では増加しているのに対し、50代および60代では減少している結果となりました。

03 市の情報の取得方法



市の情報をどのように得ていますか。



【解説】「市の情報をどのように得ているか」については、「広報紙」が64.1%と最も高く、次いで「テレビやラジオ」、「市が発信するSNS」、「市のホームページ」が僅差で並ぶ結果となりました。

SNSなどの情報媒体が普及する中においても、市の情報については紙媒体の広報紙から情報を得ている人の割合が多くを占めていることが分かります。